

ソーシャルワークの理論と方法(専門)

問題 28 次のうち、ソーシャルワークにおける「価値」として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 援助関係形成の技術
- 2 自己覚知
- 3 多職種との連携
- 4 社会正義
- 5 専門的な知識

問題 29 次の記述のうち、不登校傾向のある中学生に対するスクールソーシャルワーカー(精神保健福祉士)による初回面接時の関わりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 話す言葉と同様に、本人の表情や態度からメッセージを捉える。
- 2 言葉と行動の不一致を明らかにして、本人に示す。
- 3 気持ちの同一化を図るため、精神保健福祉士自身の生活歴を話す。
- 4 不登校の理由が明確になるまで、質問を続ける。
- 5 友人のように接することで、陽性転移を生じさせる。

問題 30 次の記述のうち、アルコール依存症者の配偶者の態度変化に関するジャクソンの7段階説の第1段階に当てはまるものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 飲酒する本人を無視したり、軽んじたりする。
- 2 家族関係がうまくいくように、飲酒を続ける本人と別居することを決心する。
- 3 飲酒する本人への対応方法が分からないまま、一人で問題を取り除こうとする。
- 4 家族の情緒的交流が解体し、家族としての目標を失う。
- 5 本人の飲酒問題を否認し、困惑しながら生活する。

問題 31 次の記述のうち，異なる機関に所属する専門職で構成されるチームの形成期の説明として，正しいものを1つ選びなさい。

- 1 各構成員が能力を発揮し，強い信頼関係が生まれる。
- 2 チームマネジメントの状況について構成員間で評価し，新たな目標を設定する。
- 3 各構成員が自らの所属機関の機能を説明し，相互理解を深める。
- 4 各構成員の課題解決に対する意見の食い違いが表面化する。
- 5 構成員が一致団結し，目標達成に向けて活動する。

問題 32 次の記述のうち、精神保健福祉士が行うコミュニティワークとして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 薬物依存症の回復者と共に、薬物依存症の理解を促す市民講演会を開催する。
- 2 支援を拒む精神障害者の自宅を繰り返し訪問する。
- 3 身寄りの無い精神障害者がアパートを借りる際の保証人を探す。
- 4 地域若者サポートステーションの就労支援プログラムを担当する。
- 5 精神保健福祉領域で活動できるボランティアを育成する。

問題 33 震災から数年後のある日、地域活動支援センターを利用しているAさんは「震災の時の避難所は、人の声が途切れないし、人に見られている感じが息苦しかった。中に居られなかったので、車内で過ごした。とても不安で、体調も不安定になった。つらいことを誰にも言えず、我慢するしかなかった」とB精神保健福祉士に話した。後日開催された「協議会」の部会でも、同様の事例が幾つか出ていた。そこでB精神保健福祉士は、精神障害者の災害時避難対策のワーキンググループ設置を提案し、承認された。そして、早速活動を開始した。

次の記述のうち、ワーキンググループ初期段階の活動として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 避難所に個室ユニットを作る簡易テント購入のため、クラウドファンディングで資金を募る。
- 2 市に対して、メンタルヘルスに特化した避難所ガイドラインの作成を要望する。
- 3 精神障害当事者とその家族や支援者の声を集約し、困りごとを可視化する。
- 4 精神疾患の理解のため、啓発動画を作成して、SNSを通じて発信する。
- 5 地域防災フォーラムに当事者が登壇し、新たな仕組みを提案する機会を設ける。

(注) 「協議会」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づき行われる協議会のことである。

(ソーシャルワークの理論と方法(専門)・事例問題)

次の事例を読んで、問題 34 から問題 36 までについて答えなさい。

〔事 例〕

A 精神保健福祉士(23 歳, 男性)は大学卒業後, 精神科病院に就職し, 精神科デイケアの担当となって半年が過ぎた。日々の業務には慣れてきたものの, 経験の長い B 精神保健福祉士の補助的な役割を担うことが多かった。

ある日のスタッフ会議で, A 精神保健福祉士が翌月からプログラム活動の一つ企画して担当することになった。A 精神保健福祉士は, デイケアメンバーとの雑談の中で, 運動不足を解消したいという声を幾つか聞き, 軽スポーツのプログラム活動を企画立案した。5 名のメンバーの参加があり, 初回ミーティングを開いた。そこで A 精神保健福祉士は, そのミーティングでグループワーカーを務めた。(問題 34)

プログラム活動が始まって 3 回目から, 新たにデイケアを利用開始した C さん(24 歳, 男性)が加わった。C さんは, 大学生だった 21 歳の時に統合失調症と診断され, 外来通院していた。記録では, 中学生の時にいじめられた出来事があり, 人間関係に苦手意識があるとのことだった。当初の C さんは, 他のメンバーと距離を置き, 活動にほとんど参加しなかった。そこで A 精神保健福祉士は, C さんが孤立するのを防ごうと面接を行った。C さんは「みんなと話せるようになりたいけど, 中学の時みたいになったらどうしようとも思う。自分がよく分からない」と語った。(問題 35)

その面接後, C さんは, 少しずつではあるが活動に参加するようになっていった。しかし, 過去の出来事から, 新たに参加した特定のメンバーが近づくと急に席を離れる等の反応を示し, 場の雰囲気が悪くしてしまうことが度々あった。A 精神保健福祉士が, C さんのその態度を面接で取り上げたところ, それ以降, C さんは A 精神保健福祉士を避けるようになった。そこで, A 精神保健福祉士は C さんとの関わりについて, B 精神保健福祉士に時間をとってもらい, 面談室で相談した。(問題 36)

その後, A 精神保健福祉士は C さんとの関係を改善することができた。今では C さんもデイケアに馴染み, 就労に^なじ関心を示すようになってきた。

問題 34 次の記述のうち、A精神保健福祉士がこの場面で行うこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 活動が停滞しないように、メンバーと活動目標を再確認する。
- 2 メンバー全員で各自の課題の達成状況の確認を行う。
- 3 メンバー間で起こる葛藤に、積極的に介入する。
- 4 グループの課題とメンバー各自の課題の解決が進むよう、メンバーに働きかける。
- 5 目標に向けた合意形成を図るために、メンバー間の意見交換を促進させる。

問題 35 次の記述のうち、この時のA精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Cさんの日常生活の課題を抽出し、解決策を提案した。
- 2 Cさんが自分の気持ちに気付けるように、両価的な気持ちを明確にした。
- 3 Cさんの過去の出来事に焦点を当て、その原因を究明した。
- 4 他のメンバーとの距離が近づくように、具体的な方法を教えた。
- 5 前もって準備した質問項目に沿って、Cさんから情報を聞き取った。

問題 36 次の記述のうち、この場面でB精神保健福祉士がA精神保健福祉士に対して行ったこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 プログラム活動のメンバーを追加募集する方針を提示した。
- 2 Cさんとの関わりを振り返り、Cさんの行動の背景を考えさせた。
- 3 病院の理念を一緒に再確認した。
- 4 医学的な知見からCさんに関する助言を得られるように、主治医と調整した。
- 5 プログラム活動の担当から外れることを提案した。